第 5 回　あつぎ気候市民会議　会議録

■ 日時・場所

日時：2023 年 10 月 15 日（日）13:00〜17:00
場所：アミューあつぎ　6 階 602・603（シンポジウム、B 分科会）
　　7 階 ミュージックルーム 2（A 分科会）

■ 出席者

参加者：36 名（欠席 13 名）
（内訳：A 分科会　19 名…「い」「ろ」「は」「に」の 4 グループを編成
　　B 分科会　17 名…「ほ」「へ」「と」の 3 グループを編成）
パネリスト：浅利美鈴氏（総合地球環境学研究所）、二ノ宮リム さち氏（東海大学）、
　　岩崎 茜氏（サイエンスコミュニケーター）
専門家：松原弘直氏（環境エネルギー政策研究所（ISEP））、梶田佳孝氏（東海大学）、
　　山本佳嗣氏（東京工芸大学）、村上千里氏（消費生活アドバイザー）
分科会司会（メインファシリテーター）：鈴木秀顕氏（A 分科会）、岩崎 茜氏（B 分科会）

■ プログラム

13:00	開会　ふりかえり・今回の内容説明	
13:10	第一部　シンポジウム 普及啓発をどうやってすすめるか アクションプラン〜市民の行動変容へ	浅利美鈴氏、二ノ宮リム さち氏、 岩崎 茜氏 モデレーター：鈴木秀顕
14:00	（休憩：A 分科会は会場移動）	
14:10	第二部　分科会 アイスブレイク・会議の進め方説明	A 分科会メインファシリ：鈴木秀顕 B 分科会メインファシリ：岩崎 茜
14:15	グループ討議 アクションプラン原案を作成	10 分間休憩を 2 回設け、その間に他グループの模造紙を見て回る
16:50	次回に向けての連絡	
17:00	閉会	

■ 配布資料

【事前配布（配信）】
・あつぎ気候市民会議　第 5 回会議案内
・あつぎ気候市民会議　アクションプラン素案（※当日に正誤表を配布）
【補助資料（前回までに配布）】
・厚木市カーボンニュートラルロードマップと厚木市地球温暖化対策実行計画
・太陽光発電のギモン解決！よくある質問 15 選（パンフレット）
・1.5°Cライフスタイルプロジェクト　オプションカタログ（相模原市版）　等

1．開会　内容説明

実行委員会から今回の内容と今後の進め方の説明を行った。まず、今回は「アクションプラン素案」をたたき台とした議論を進め、アクションプランの「原案」を作成することがゴールであるとした。今後は、第 5 回会議後に実行委員会が原案を整理し、項目ごとの推進度合いの投票を行い、結果を反映させた案をもって第 6 回会議（最終回）の議論に臨むことなどを伝えた。

また、特に重要な点として、①厚木市カーボンニュートラルロードマップの数値目標を達成し得る、社会の大転換につながるプランとなること、②「市民が主役・主語になる」とは「たくさんの私」の行動変容につながる仕組みや基盤を作る内容であることの 2 点を改めて強調した。

2．第一部　シンポジウム

本日の前半は、普及啓発活動をどのように進めるかをテーマとしたシンポジウムを実施した。冒頭では社会運動に関する動画を視聴し、続いて 3 名のパネリストが順に発表を行った。

浅利美鈴氏は、「SDGs ネイティブ世代」である 10 代では SDGs を考慮して商品やサービスを選択する割合が非常に高いことを紹介し、当たり前のように話したり勉強したり多様性に耳を傾けることの重要性に触れた。また、世界の変革は地域から生まれるという概念に触れ、厚木市は自然と都会のバランスが絶妙であり、地域の中で人も経済も循環させられるとよく、エネルギー、豊かさ、誇り等が地域に根差すと持続可能なすばらしい街になると述べた。

二ノ宮リム さち氏は、環境教育学の視点から、効果的な気候変動教育の考え方について概説した。認知・知識、社会性・情動、アクション、正義への着目という 4 つの項目を挙げた上で、地域の中でどのように気候変動教育を展開していくことが効果的かを多層的に図示した。また、スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリ氏の発言を引用し、行動が重要で、どんなサイズでも関わり方でも、アクションを皆で少しずつ進めていくことが今後のステップとなるとした。

岩崎 茜氏は、気候変動問題を「自分ごと化」するためには想像力を働かせることや心・感情が動くことが重要であるとした。また、身近な地域を変えるために各自が今自分に担えることを行い、その小さな活動が集まることで地域全体を見ると協働による多様な活動となること、自分がリーダーになるだけでなくフォロワーになることも大切であるとした。参加者には、地域とのつながりの中で、楽しみや手応えを得ながら何らかのアクションに関わる機会を増やしてほしいと述べた。

最後に、各パネリストから参加者へメッセージを述べた。概要は次のとおりである。

■浅利氏：皆さんの関心や趣味に沿ってできることを考えると、活動が続くしモチベーションになる。また、社会の変革には時間が必要である。社会や地域のための活動を会社が許可・評価するなど、地域のために時間を作れるような社会づくりも考えないといけない。

■二ノ宮氏：重層的なネットワークのどこで何ができるかは人によって様々だ。アクションしたいと思った時は 3 人集めると結構なことができる。また、企業や行政に必要なことを求めることも市民として必要で、言っていかないと変わらない。求めている人を応援することも重要だ。

■岩崎氏：脱炭素対策を考えてしんどくなった方もいるかもしれない。そんな時は、自分の生活も社会も豊かで暮らしやすくてハッピーになることを想像し、そのような未来の中で何をするといいのか考えると、心が動き「自分ごと」になり、できそうという気持ちになれるかもしれない。

3．第二部　分科会　グループ討議

本日の後半では、前回と同様に A 分科会と B 分科会の会場に分かれてグループ討議を行った。

討議のたたき台となるアクションプラン素案は、「大項目（テーマ）」「中項目（取組内容）」及び「小項目（より具体的な取組内容）」の三層構造となっている。今回の討議では「中項目」ごとに議論を深めていくこととした。なお、「中項目」は A が 12 項目・B が 10 項目であるが、素案ではさらに、議論の中で出てくることが予想される普及啓発に関する内容を「大項目 C」として抽出して 2 つの中項目を設定しており、今回のグループ討議でも併せて検討する構成とした。

討議では、それぞれのグループで「中項目」ごとに時間配分しながら検討を深めた。具体的な取組内容を深掘り・追加したり、課題の解決策の検討を進めた。なお、グループファシリテーターや東海大学の学生が付箋の記入を担当した。

ここでの討議のうち、各グループが特に検討を深めた「中項目」及び討議内容を抜粋して以下に示す（表中の番号は「中項目」に対応・項目の詳細は別途公開される素案参照）。これらを含め、実行委員会において全ての討議内容を整理し、アクションプランの原案に反映する。

【A 分科会　大項目 A-1：創エネ・エネルギーの地産地消・A-2：移動・まちづくり】

グループ	概要
い	【A-1-1】太陽光発電の設置店舗にラベル・発電量を掲示するなど、見える仕組みによって市民の気づきを促す。大企業は義務化、中小企業へは優遇措置を実施。 【A-1-2/A-1-3】地域新電力は必要。市と企業の共同出資など、事業主体は要検討。公民館単位で地域蓄電池を持ち、エネルギーマネジメントシステムを構築。 【A-2-4】厚木市が所有する車を EV に切り替え、休日などはそれを市民に貸し出す。車体へのシール掲示や回覧板などで市民に積極的に周知する。 【A-2-5】自転車利用者のマナーアップだけでなく、自動車運転者のマナーアップも必要。自転車専用レーンの整備だけでなく、お互いに思いやりが必要。
ろ	【A-1-5】給湯や床暖房の補助熱源として、家庭用太陽光温水器の活用を推進する。 【A-2-1/A-2-4/A-2-5】エリア内の移動は主に徒歩、自転車、巡回コミュニティバスとする。駅周辺へのマイカー乗り入れは時間帯規制を拡充し、段階的に禁止する。安全のために自転車専用レーンの整備や歩道のゾーニングを推進する。 【A-2-2】スクールバスかバス路線を充実させることで、送迎のマイカー利用をなくす。イベントやレジャー等、休日の移動需要に対応するバスを運行する。 【A-2-3】マイカー自己所有ゼロを目指しつつ、所有数を減らしていく。所有の場合は EV100％を目指し、EV 以外は税額を増やして税収を道路整備等に充てる。
は	【A-1-1/A-1-2】地域新電力会社を設立する。市民出資（クラウドファンディング、募金方式など）で、出資により市民の関心を高め自分ごと化する効果もある。新会社では PPA の PR、助成金申請サポートなども担うとよい。 【A-2-6】 MaaS を活用し、公共交通を便利に使えるようにする。アプリや専用端末の利用、AI を使った運行管理などを進める。 【A-2-7】ドローン配送は技術的な課題が多い。ステーション（24 時間営業）に荷物を受け取りに行くのを標準とし、宅配希望者は別途サービスを利用する。

に	【A-1-1】厚木市の土地の割合から宅地と農地の太陽光のポテンシャルがある。農地を活用したソーラーシェアリングを促進するため、課題を整理し対策する。信用できる業者の選定・紹介、採算性やメリットの周知、作物への影響の説明、選択肢の提示（オンサイト PPA、リース、屋根貸しなど）などを行う。小さい農地を集めて大規模化したり JA と協力したりする。 【A-1-2/A-1-3】エネルギーマネジメント及び電気の小売り会社を作り、運営会社と共に市民も参加するため相互利用できる仕組みを構築する。たんたんエナジー（第 4 回参照）の仕組みを参考にする。厚木市民は市民出資・クラウドファンディングで参加する。

【B 分科会　大項目 B-1：省エネ・住まい・B-2：消費・食・農・廃棄】

グループ	概要
ほ	【B-1-1】断熱性の高い住宅リフォームについての情報が必要。費用対効果のデータや体験談を知る機会を設け、チラシや市の広報などで助成制度の周知をする。また効果を体感し設置検討できるような、お試しプランなどがあるとよい。 【B-2-1/2-2】地産地消を進めるために地域の商品を要望する投書を行う。CO_2 削減のためにカーボンフットプリントが可視化された商品を選択できるとよい。 【B-2-3】地域のオーガニック野菜を学校給食や老人ホームの食事に使用してほしい。消費者、農家には、市からの補助や寄付で援助する。学校での食育、栽培体験学習を行うなど消費者が生産過程などを理解して選択できるようにする。
へ	【B-1-2】家庭の再エネ電源への切り替えについて、電力自由化の認知度を上げ、電源構成比率のランク表を明確に公開することや信用できる組織を推奨すること、手続きの簡略化を要望する。 【B-2-1】学生制服は学校や公民館に回収箱を設置して常時回収し、バザー等で販売することでリユースを促す。 【B-2-2】マイボトル補充用の給水スタンドを、市内の公共施設だけでなく商業施設にも設置し、PET ボトルの購入機会を減らす。 【B-2-4】各ごみ集積場にコンポスト設置。学校給食の残飯・残渣も堆肥化する。 【B-2-5】使い捨てプラスチック製品の使用削減のために、店舗に容器の用意があり返却可能、リユース容器・瓶を返却すると割引される仕組みがあるとよい。
と	【B-1-1】断熱リフォーム（DIY）の廃棄物の管理を考慮した選択をしたい。ハザードマップを活用し災害に強く断熱性の高い新築住宅を建設する。企業や学校での体験的な環境学習の機会を作る。 【B-2-1】計画的な買い物や使い切りを心がけ、不要品は購入しない生活スタイルを実践する。不要な食品はフードバンクを活用、不用品は地域でリユースする。 【B-2-4】紙おむつを乾燥させてチップ化し燃料に変えるなどのリサイクルの他、微生物で分解する方法も活用したい。

4．次回に向けての連絡・閉会

以上